



板谷 和彦 Itaya Kazuhiko

香川大学大学院地域マネジメント研究科教授
愛知県豊田市出身。
東京大学理学系大学院相関理化学専攻修士課程修了(1986) 東京大学総合文化研究科広域科学専攻博士後期課程修了(2010)。理学修士・博士(工学)・博士(学術)。専門は経営学。

「地域から世界へ」 香川はポテンシャルを秘めています

企業や自治体などの「組織」には、必ず規範やルールが存在します。目標を達成する指針となる一方、その枠の中で縛られることもあります。地域マネジメント研究科の板谷和彦教授は、組織全体の行動を経営学の観点からとらえた組織と管理のあり方を教えています。

板谷教授は、異色の経歴の持ち主です。大学時代の専門は理学で、卒業後大手電機メーカーに就職し、研究者として25年間技術開発に従事していましたが、一から経営学を学び直し、工学だけでなく経営学に関する博士号も取得しています。

電機メーカーの研究者時代、アメリカのカリ

フォルニア大学サンタバーバラ校(UCSB)に派遣されて一番驚いたのは、大学教授がたくさんのベンチャーを立ち上げ、新しいものを生み出そうとしていることでした。その当時、板谷教授は「先生なんだから無理して起業しなくても」と思っていました。しかし、大学教授がベンチャーを作り、そこで研究室の優秀な学生や卒業生が新たなものを生み出していく姿を見たことがきっかけで、彼らがどのような意識で創造しているのが気になり、勤めながら大学院に再入学して勉強することとなりました。

経営学者としてUCSBを再訪問した際、「なぜベンチャーを作るのか」を質問したところ、彼らは質問の意味が理解できませんでし

た。「なぜ作らないのか」と逆に質問されるほど彼らにとっては当たり前のことなのです。日本は学歴社会と言われていますが、アメリカの大学院進学率は日本の4倍以上と高く、高度な専門性が重視されています。アメリカの学生にとって博士号(Ph.D)を取得するのがステータスで、しかも出身大学と違う大学院に進むとさらに評価が高くなります。就職についても、優秀な学生が大手企業に進む日本とは違い、アメリカではベンチャーに進みます。そうした風土が新たなイノベーションを生み出しているのかもしれない。

地域マネジメント研究科は、地域に貢献できるリーダーを養成する修士課程です。板谷教授は経営管理論と定性的研究方法

論などを教えています。学生のうち9割は社会人で出身もさまざま。学生の中には企業の社長もいます。「地方には面白い企業がたくさんあり、突き抜けた発想をする人もたくさんいて面白い。卒業生の中には全国の名高い学会に論文投稿した人もいます」と香川県が持つポテンシャルの高さを実感しています。実際に県内企業で、独自の検査技術を持った会社のソフトウェアが世界的なメーカーの工場に導入された事例もあります。

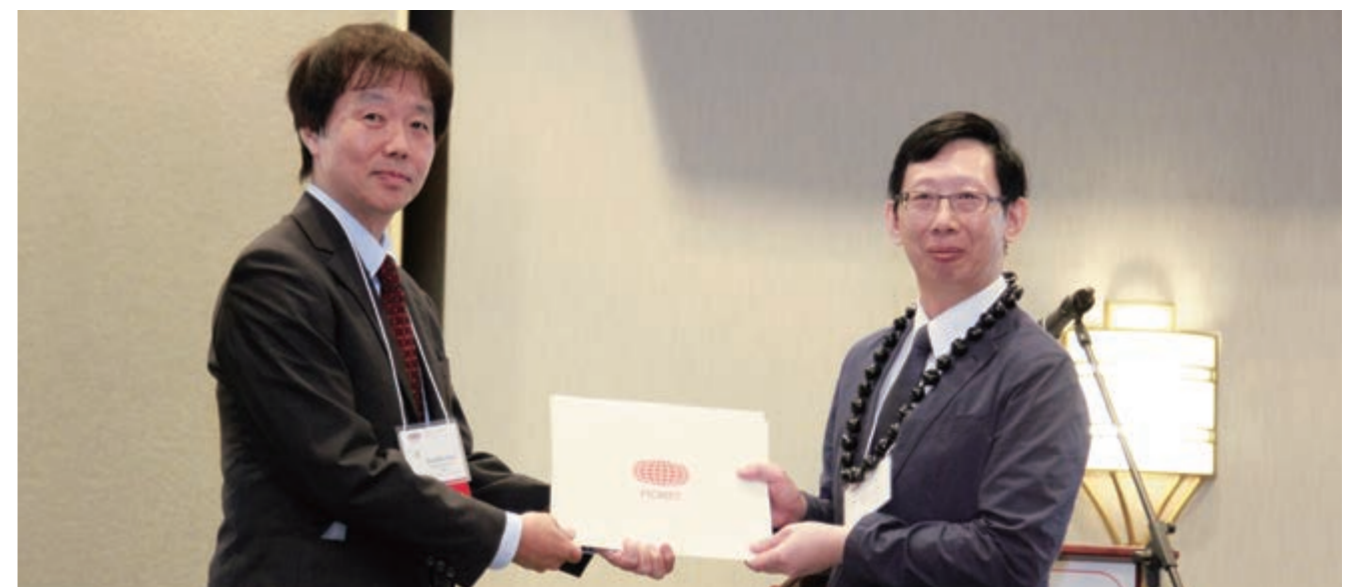
「製品だけではなく、その根幹をなす理論や知恵を地方の企業が持っていることもあります。それを見つけて、マッチングするのは私の役目」と板谷教授。「今の私は技術そのものの研究ではなく、方法論として創造性やセレンディピティ(偶然に何かを

見つけること)をどう働きかけをすれば育まれるかを研究しています」と話します。アメリカオレゴン州ポートランドで開催される技術経営の最も大きな国際会議であるPICMETに、前職の東京農工大学の学生とともに成果を発表し、ベストプロフェッサー賞に輝きました。これまでの受賞者の所属を見ると、マサチューセッツ工科大学やオックスフォード大学など世界的に有名な大学ばかり。日本の地方大学である香川大学の名が世界中に広がり、板谷教授は「痛快でしたね」と笑っていました。

地域マネジメント研究科では、2020年度から「イノベーション」をテーマにした授業を行う予定で、現在準備の真っただ中。アメリカは「大学があるところにベンチャーあり」と言われるほど、次々と新しいものが生まれて、

新陳代謝が進んでいます。その点で日本は遅れていますが板谷教授は「組織に存在する規範やルールなどの『縛り』を打ち破り、新たなものを生み出せる風土は都市部より地方に可能性がある」と考えています。

ギターとキーボードが趣味で、カレーの腕前と餃子の焼き方にこだわりを持つ板谷教授。「地域から世界へ」。遠く険しい道のりかもしれませんが、持ち前のバイタリティで少しずつ前進しています。



2017年 PICMETでの授賞式

ワークショップのお知らせ

第5回 PICMET Japan Talk meeting

技術経営に関するさまざまな話題を共有し、課題解決や研究・開発に向けて知識を共創していく場です。ぜひご参加ください。

- 日時 2020年3月21日(土) 13:00~16:00
- 場所 香川大学 又信記念館1階(幸町南キャンパス内 高松市幸町2-1)
- 基調講演 丹羽 清氏(東京大学名誉教授)
テーマ 「地域を有利に活用したイノベーションのヒント」(仮題)
- 問い合わせ先 TEL:087-832-1864 E-mail:itaya@gsm.kagawa-uc.ac.jp

地方で初開催!

〈研究シーズ活用のご相談は〉

香川大学 産学連携・知的財産センター

〒760-8521 香川県高松市幸町 1-1
TEL.087-832-1672(代)
FAX.087-832-1673

本学研究者の研究成果は、HPより確認できます。

<https://www.kagawa-u.ac.jp/ccip/>

